

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局環境安全・防災課
担当課長名：野田 勝

事業の概要

事業名	地高ICアクセス道路 主要地方道 大津能登川長浜線 上砥山・目川工区	事業区分	地方道	事業主体	滋賀県
起終点	自：滋賀県栗東市上砥山 至：滋賀県栗東市目川	延長	1.7km		
事業概要	<p>大津能登川長浜線（上砥山・目川工区）は、栗東水口道路と草津市市街地を最短で結ぶアクセス道路として整備を行うものである。</p> <p>本事業を行う区間では、現道が非常に狭隘で普通車の離合すら困難な状況であり、アクセス道路としては脆弱であるため、狭隘区間をバイパス整備により回避し、金勝川の堤防と並行する区間は現道拡幅をすることで、アクセス道路としての機能と安全性を確保する。</p> <p>事業の目的、必要性 大津能登川長浜線 上砥山・目川工区 は、現在事業中の栗東水口道路と草津駅周辺エリアとのアクセス道路として機能し、周辺の交通渋滞の緩和、観光分野の支援、防災拠点への緊急時のアクセスに資する道路である。</p>				
全体事業費	約29億円	計画交通量	約8,600 台/日		
事業概要図					

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.8	総費用：23億円 （事業費：22.0億円 維持管理費：1.0億円）	総便益：42億円 （走行時間短縮便益：40.0億円 走行経費減少便益：2.1億円 交通事故減少便益：-0.68億円）	基準年 平成30年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5 (交通量 +10%)	B/C=2.0 (交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C=1.6 (事業費 +10%)	B/C=2.0 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=1.6 (事業期間 +20%)	B/C=1.9 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	並行する路線からの交通の転換により混雑が緩和。		
		事故対策	—	注目すべき影響はない。		
		歩行空間	○	現道狭隘部のバイパス区間においては自転車歩行者道が両側に整備されることから、草津駅へ向かう歩行者・自転車の安全な歩行空間が確保できる。また、金勝川の堤防と並行する区間は歩道が拡幅され、安全性が向上する。		
	社会全体への影響	住民生活	○	草津駅やその周辺の官公庁等へのアクセスが向上。		
		地域経済	○	草津駅からのアクセスが向上することから、周辺の工業地域等への支援が期待できる。		
		災害	○	緊急輸送道路と防災拠点がつながり、災害時の応急活動に貢献。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
地域社会	○	大津市、草津市、栗東市、湖南市の交流・関係の促進への寄与が期待される。				
事業実施環境	◎	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定（昭和47年） 地元自治体で形成される大津湖南地域幹線道路整備促進期成同盟会（大津市、草津市、栗東市、湖南市、野洲市、守山市）より、早期整備の要望を受けている。 				

関係する地方公共団体等の意見

地元自治体で形成される大津湖南地域幹線道路整備促進期成同盟会（大津市、草津市、栗東市、湖南市、野洲市、守山市）より、早期整備の要望を受けている。

学識者等の第三者委員会の意見

新規着手することが妥当（滋賀県公共事業評価監視委員会 H31年2月19日）

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。
沿線自治体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

採択の理由

事業主体である滋賀県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.8と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、滋賀国道事務所が整備する栗東水口道路のアクセス道路としての機能確保、周辺の渋滞緩和、生活道路の安全性の向上が期待できるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業は平成31年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。